

(別紙5)

調 査 報 告 書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 20年 4月 30日
調査実施の時間	開始 10 時 00 分 ～ 終了 15 時 30 分

訪問先事業所名 (都道府県)	<u>グループホーム もも太郎さん喜多方</u> 福島県
-------------------	---------------------------------

評価調査員の氏名	氏 名 <u>大野 恒夫</u> 氏 名 <u>熊谷 まゆみ</u>
事業所側対応者	職 名 <u>管理者</u> 氏 名 <u>遠藤 憲司</u> ヒアリングを行った職員数 (2)人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	770800498
法人名	株式会社 ジェイパック
事業所名	グループホーム もも太郎さん 喜多方
所在地	福島県喜多方市松山町村松字上原22番地 電話0241-21-8630
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石1-2-13
訪問調査日	0242-28-1272

【情報提供票より】（平成20年4月17日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人,	常勤換算

（2）建物概要

建物構造	鉄筋モルタル 造り	
	2 階建ての	1 ・2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	45,000 円		その他の経費（月額）	18,000 円	
敷 金	有（ 円）		無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無		有りの場合 償却の有無		有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,200 円				

（4）利用者の概要（ 4 月 17 日現在 ）

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	3	要介護2	6		
要介護3	6	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低 79 歳	最高 94 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	有隣病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中に立地するホームは、広い居間、居室（8畳）、家族の絆を大事にするための家族部屋がある。事業所と地域との関係性を強める取り組みを積極的に行っている。ミーティングを大事にして利用者の情報を共有、意識向上をはかっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	評価の意義の理解と活用、重度化や終末期に向けた方針の共有等。評価結果を受けて職員で話し合い改善につなげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
重点項目②	自己評価票を職員に配布し、記入してもらい管理者が取りまとめた。取りまとめた結果を全員に回覧した。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4、5）
重点項目③	サービス提供状況の報告、地域連携、災害対策等。地域の集会所を利用した花見の実施、地域の人の参加。消防訓練への地域の人の参加につながっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7、8）
重点項目④	苦情受付窓口、市町村の相談窓口等について説明するとともに、家族の訪問時には必ず意見等を聞く機会を持つようしているが、意見・苦情は中々上がってこない。
	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
重点項目④	花見、芋煮会などの行事に地域の人に参加してもらい交流を深めている。

2. 調 査 報 告 書

調査員氏名 大野 恒夫

／ 同行調査員氏名 熊谷 まゆみ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針を踏まえ、職員自身が施設に入所した場合、こうしてほしいという思いを出し合い、ユニット毎の理念を作り上げた。	○	事業所と地域の関係性を強める取り組みを実践しているが、地域密着型サービスの役割を考えた文言を理念に組み入れるよう検討してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、毎日理念の唱和を行い、理念の共有、意識付けに努めている。また、ユニット毎に毎月の目標を掲げ、目標が達成されたかを反省・確認している。	○	<u>日々の利用者との関わりが理念に沿ったものになっているか、職員全員で定期的に話し合う場を持つてほしい。</u>
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花見、芋煮会などの行事に地域の人に参加してもらうなど交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に自己評価票を配布して記入してもらい、管理者が取りまとめた。取りまとめたものを全員に回覧した。外部評価の結果を受けて、ミーティングで話し合い改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からのサービスの内容等を報告し、質問、意見をいただいているが、定期的な開催となっていない。	○	定期的な開催に努めるとともに、外部評価の結果を報告し、取り組経過や改善経過のモニター役になってもらうことを検討してほしい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診結果や日常の変化などはその都度報告し、金銭管理、利用者の近況報告を家族に毎月送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口、市町村の相談窓口等について説明するとともに、訪問時に必ず意見を聞く機会を設けるようにしている。苦情・意見は中々出されない。	○	家族等は、意見や不満、苦情を言い出し難いということを理解し、職員や事業所側から積極的に聞く努力をや場面づくりを行うよう努めてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、利用者への説明・報告を行っている。	○	職員の離職を事業所の努力だけで防止することは難しいが、働きやすい人間関係づくり、職場づくりに努めてほしい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧し希望者を募ったり、レベルに応じて参加させるなど、勤務を調節して参加の機会を確保している。施設研修として外部講師による栄養教室等の勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会（県、市）に加入・参加し、研修への参加、情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、できることはしてもらうようにしている。職員は、利用者の言うことをじっくり聞くように努め、利用者から料理の味付けを教えてもらったり、介護に悩んだりしたとき慰めてもらったりして支えあう関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でつかんだ情報を職員同士で共有し、また、センター方式の一部を活用し、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、利用者・家族の意向をもとに原案を作成し、職員の意見を取り入れて利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケースカンファレンスを行い、介護計画に基づいた支援が実行できたか、結果がどうなったかを職員で話し合い見直しにつなげている。	○	介護計画に基づく支援が実行されたのかが日々の支援経過に必ずしも明確に記載されていないので、記載方法、チェック方法等を検討してほしい。
結果が					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。毎月の受診予定表により職員が同行し、連絡事項を書くことにより適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に事業所として対応できる内容について説明しているが、重度化や終末期の対応方針を明文化はしていない。	○	在宅医療に理解ある医師をどう確保するかという課題があるが、看取りに対する考え方が職員全体で意思統一されていることを前提に、重度化や終末期の対応方針を定め、職員全体での話し合い、家族との話し合いなど関係者で方針を共有するようにしてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を意識しながら言葉かけや対応を行っている。記録など個人情報についても注意して保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、外出、散歩、買い物、入浴、就寝など利用者一人ひとりのペースを大切に支援している。外出担当の職員を置くなど利用者の要望に対応できる職員体制を取っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け、固さ、量など利用者のアンケートを取り参考になっている。調理、配膳、下膳なども可能な利用者とともにやり、職員と利用者が同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴を実施している。夕食後の入浴も希望すれば可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	季節ごとの行事参加、花見、紅葉見物などの外出、その人の得意分野を活かし、エプロンの手縫いや畑仕事など個別支援ができるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	その日の天候や利用者の希望に応じて日常的に散歩や買い物に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホールを離れる際は、他の職員に声をかけるなど職員の見守りの方法を徹底することや、玄関にセンサーを設置するなどして日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署の指導の下、地域住民も参加した通報、避難経路の確認、消火器の操作などの訓練を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間、畳スペースなどゆったりとくつろげる空間があり、馴染みのものが置かれたり、絵画などが飾られ落ち着いた居場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味のもの、整理タンス、椅子など家で使用されていたものが持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム もも太郎さん喜多方

記入担当者名 管理者 遠藤 憲司

評価結果に対する事業所の意見
なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について
意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。